



2015



CHARTERED SEPT. 11, 1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2015 - 16 会長主題

一人ひとりが賜物。もっと発酵、もっと発信！

あずさ部長	標 克明 (甲府)	「ワイズメンとして一步前進」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府)	「原点に立って、未来へステップ」
アジア地域会長	Edward K. W. Ong (シンガポール)	“Through Love, Serve” 「愛をもって奉仕をしよう」
国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ)	“Mission with Faith” 「信念のあるミッション」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上妻英夫 / 書記 鈴木田通夫 / 会計 尾内昌吉・金本伸二郎
直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 沖 利柯

2015年 8月 納涼例会
＜CSの月＞

と き 8月18日(火) 18:30～20:30
と ころ 「にんじんや」
高田馬場1-27-6 K1ビル3階
Tel.03-3209-2690
高田馬場駅前ホテルサンルート隣のビル3階(別紙案内図参照)

受付 尾内さん・飯島愛子さん
司会 上妻英夫さん
開会点鐘 会長
聖句朗読・祈禱 尾内さん
会食・懇親 一同
ハッピーバースデー
ニコニコ 一同
山手Yの小窓から 担当主事
報告 担当主事、会長
閉会点鐘 会長

◎特別会費 3,500円

当番(第1班) 功能、上妻、尾内、飯島(愛)

ワイズメンズクラブ モットー

『強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う』
“To acknowledge the duty
that accompanies every right”

今月の聖句

モルデカイは再びエステルに言い送った。
「他のユダヤ人はどうであれ、自分は王宮にいて無事だと考えてはいけない。この時にあたってあなたが口を閉ざしているなら、ユダヤ人の解放と救済は他のところから起こり、あなた自身と父の家は滅ぼされるにちがいない。この時のためにこそ、あなたは王妃の位にまで達したのではないか。」
エステル記4:13-14

8月 HAPPY BIRTHDAY

会費の納入は、会計(尾内君)への納入または下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431「東京山手ワイズメンズクラブ」

7月報告

会員在籍数		18名
例会出席者	メン	15名
	メネット	一名
ゲスト・ビジター		7名
会員出席率		83%
ニコニコ	10,110円	(累計 10,100円)
B F 切手	-kg	外国切手 -kg

7月例会 報告



日時：7月21日（火）18時30分～20時30分

場所：東京Y山手センター 101号室

出席者（敬称略）：

メンバー：浅羽、上妻、飯島（愛）、飯島（隆）、
飯野、尾内（昌）、尾内（規）、沖、
功能、鈴木田（通）、鈴木田（祐）
田尻、戸坂、中村、増野 15名

ゲスト・ビジター

東京YMCA評議員 上田 晶平さん

（上田八木短資（株）社長）

小山久恵さん（サンライズ）

小原史奈子さん（あずさ部国際交流事業主査、
たんぼぼ）

服部節子さん（たんぼぼ・会長）

越智京子さん（たんぼぼ）

藤江喜美子さん（たんぼぼ）

釜坂 聖さん（AYCアジアユースコンボケー
ション参加学生）

合計 22名

司会：鈴木田通夫さん

7月、ワイズの新年度スタート月は、東京YMCA評議員の上田晶平さんから貴重な卓話を伺いました。

ハッピーバースデーは20日「海の日」が誕生日の飯島愛子さん、今年は〇回目のひつじ年を迎えて記念に銀座で個展を開催されたとのこと。

楽しい歌は、鈴木田祐子さんの選で「海」の2曲、「松原遠く」と「うみはひろいな」を戸坂さんのピアノで、「ズンゴロ節」を浅羽さんのピアノで歌いました。

そして上田さんの卓話の時間になり、まず、自己紹介されました。1973年、中1の年に山手Yのキャンプ（北海道、チミケップ）に初参加し、以来キャンプ中心に参加、世田谷Yの中高生グル

ープにかかわり、大学時代はリーダーを4年間、週3、4回はYに通っていたとのこと、就職してからはYとの縁が切れたが、結婚式は神田の東京Yのホテルで挙げられたそうです。2011年の東京Yの公益財団化の時に本田真也さんから評議員（ノンクリスチャン枠）にと要請されたとのこと。趣味はマラソンで最近100キロマラソンを完走されたそうです。

—上田晶平さん 卓話—

「転機を迎える東京YMCAの将来に向けて」（要旨）

1、**財政の黒字化**は2013年度に実現したが、これは東陽町センターの賃貸料が2013年から減額になったこととホテル専門学校の収支の貢献度が大きいことによる。しかし、必ずしも盤石な財務体質ではない。

2、**東陽町センターの賃貸契約**は2013年に新しく15年契約を結んだが、この契約は5年毎に見直しすることになっており、2018年3月末をもって解約する。理由は、使われていないスペースが沢山あり、賃料を払うために事業をしている面もあることからである。

現在の事業の見直しは使命感と費用に視点を置く。YMCAの使命として赤字でも継続すべき事業かどうか、ウエルネス事業は東陽町ではセンターの半径2キロ以内に15スポーツセンターがある。普通のウエルネス事業をやる必要がどこまであるか。

3、**魅力あるYMCA活動に向けて**

発信力の強化 YMCAのブランド力は落ちている。インターネットにのっていないものは情報とはいわない世の中で東京Yのホームページは古い。魅力的、積極的なPRが必要。ニューヨークYのホームページは立派だ。

魅力ある事業には**施設や優秀なスタッフ**が大切で、それにはお金がかかる。

会員や寄附の増加に向けて 寄附は対象を分りやすく見えやすく、支援先を明確にする。赤字でも使命感のある事業単位の寄附がいい。**個人会員、賛助会員をふやす**リーダーOBがYの会員につながるが、ニューヨークYはインターネット上の同窓会を作っている。山中





湖センターの寄付の半分は企業だ。企業も見えない寄附はどんどん切っている。しかし、一方では、CSR (corporate social responsibility 企業の社会的責任) 活動も盛んで三菱商事ではお金だけでなく社員も出している。三菱商事のCSR担当常務の方は元山手Yのリーダーだった方である。
(まとめ・機能)

7月ヨルダン会 報告

日時：7月21日(火) 16:00-17:50
 場所：山手センター 202A号室
 出席：浅羽、上妻、尾内、沖、機能、鈴木田、中村、増野 8名
 議題：

- 1、今年度会長方針
 - ① 新会員獲得を常に考えて行く。
 - ② ユースを巻き込むプログラムの開発。
 - ③ 「福島支援」の方法を考える。
 - ④ 山手ワイズ一人ひとりの賜物を発信する。
 - ⑤ 次期(浅羽部長年度)へ備える。
 - ⑥ 山手センター会員の山手センター運営への巻き込みを考える。
- 2、納涼例会 山手センター101号室でケータリングを利用して開催するか、高田馬場近辺の店を探す。
- 3) 福島への取組み
 まず、メンバーの思いをブリテンに載せる。8月号：浅羽、9月号：増野(8月に東北に行く予定)
- 4) 3クラブ合同例会
 山手、サンライズ、たんぼぼ3クラブの

合同例会を11月17日に開催。プロの演奏家を2人招く計画、部長公式訪問を組み入れる。

- 5) 次期部長年度の態勢固め
 書記は未定、会計は尾内さんを予定。
- 6) 今年度前期の活動と戦略
 9月例会(15日)卓話を大谷博愛ワイズ(サンライズ)に交渉する。
 9月ヨルダン会は第4水曜が休日のため9月15日例会の前16時から開催する。
 10月例会 山手センターの地元の町会長に卓話を依頼する。
 11月例会 3クラブ合同例会
 12月例会 クリスマス祝会
- 7) 会計報告
- 8) その他

.....
 「東陽町センター閉館」会員説明会 報告
 機能文夫

東陽町センターの閉館に関しての説明会が、8月1日(土)10:00から、東陽町センターで開かれ、廣田総主事と菅谷副総主事から説明があった。ちょうど京都でワイズのアジア大会が開催中であり、参加者は少なく山手からは鈴木田、機能が出席した。

東陽町センターは建物全体の半分が使われておらず赤字を出しているため、現契約(15年契約)の5年目になる2018年3月末をもって中途解約する。1988年開設以来30年でその活動を終了することになる。これに対して、事業としてだけでなく、YMCAのいのちを今後どうつないでいくかが大事、事業体としてのY、運動体としてのYの論議を深めるチャンスにしようという意見等が出された。



第1回あずさ部「海の日」評議会 山手のホストで開催

鈴木田通夫

7月18日(土)、わがクラブのホストにより、2015年度の第1回評議会が目白聖公会の集会室で60名のワイズの参加を得て開催された。

定刻12:30、開会式は中村ワイズの司会で幕が上がった。新部長の標(しめぎ)克明さん(甲府)の開会点鐘、一同によるワイズソング、鈴木田ワイズによる聖書朗読(ピリピ書3:13-17)と祈禱、ホストクラブの浅羽会長による歓迎の挨拶があり、評議会に移った。

評議会はまず出席者の確認をして評議会の成立が宣言され、標部長の挨拶があり、「私は船の船長、目的港に着くには各クラブの各ワイズの絶大なるクルーとしての協力が必要」と若々しく力強く語られた。次いで議案審議に入り、①前年度あずさ部会計決算の報告と監査報告があって決算が承認された。②今年度第2回、第3回評議会と部会開催のホストクラブが承認された。第2回(16年2月)松本、第3回(16年5月)東京八王子、部会(15年10月)甲府。

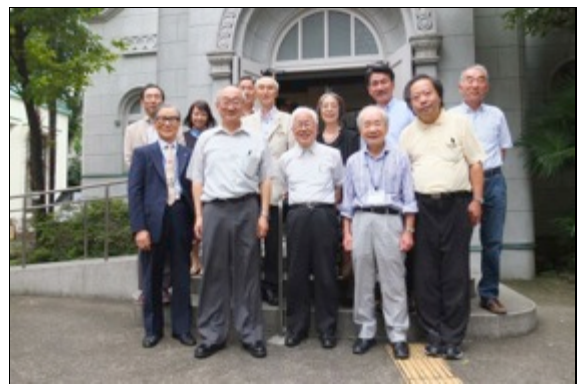
次に、7月11日(土)に開催された東日本区役員会の報告が部長より行われ、続いて新任の各事業主査、各クラブ会長の所信表明がなされた。詳細は当日配布された「あずさ部部報第1号」を参照願う。

今回の評議会では標部長の希望により、LT(リーダーシップトレーニング)の時間が設けられ、吉田明弘ワイズ(東京西)が「やっぱワイズだべ」と題して語られた。吉田ワイズは長年、区の文献委員、ヒストリアンを歴任したため、ワイズの歴史、ワイズの人物について詳しく、様々なエピソードを交え多くの話を限られた30分の中で披露された。

参加者全員の集合写真撮影の後、金本ワイ

ズの司会で懇親会に移り、飯島ワイズの祈りの後、次期部長の浅羽ワイズのお茶とジュースでの乾杯。お菓子を前に交わりの時、クラブ毎の紹介、アピールタイムがあり、特にあずさ部の最もチャーター年数の少ない長野クラブが来年の東日本区大会をホストするというアピールに対し大きな拍手が湧き上がった。部長の閉会の挨拶があり、その後、希望者に目白聖公会の礼拝堂(特に貴重なステンドグラス)の見学がなされた。わが山手クラブメンバーは後片付けをして散会した。

なお、多くのワイズが2次会、3次会へと流れて行った。詳細は不明ですが面白かったらしい、といううわさです。



おたより (7月)

<青鹿博明さん> 身体の調子もやっと快方に向い出したとの検査結果でした。水20/日

の生活が続きます。

切手、歯ブラシをスタートします。

<上妻英夫さん>「蠅リボン 野郎手もみで命乞い」 故郷の山小屋によく蠅が入って来る。下げた蠅リボンに掛り手もみが丁度命乞いをしているように見えます。

<浅羽俊一郎さん> 先日 柳澤協二氏(元防衛官僚、内閣官房副長官補)の講演を聴いてきました。安保法制について色々解説したあとで、彼が言った二つの発言が印象に残りました。(1)今の政府は人に寄り添うことを知らない。(2)今や高齢者が人口の過半数。一人の高齢者が一人の若者を変えていけば、世の中が変わる。

元防衛官僚がなぜ今政権批判するのか、不思議に思っていたら、「今月の聖句」が与えられました。

▼国際協力街頭募金

9月5日(土)13:00~17:00、新宿駅近辺で、恒例の東京YMCA一斉街頭募金を実施いたします。

この募金はアジアの子どもたちの教育や、世界中で災害や戦争で苦しんでいる子どもたちの支援のために用いられます。例年は渋谷駅近辺で実施していましたが、渋谷駅を含む近辺の開発工事のため、今年は初めての試みとして、山手センターからも近い新宿駅近辺で実施します。1時間でも結構ですので、お時間のある方は当日の募金活動にご協力をお願いいたします。

▼第29回

インターナショナル・チャリティーラン

9月23日(祝)、江東区木場公園にて第29回のインターナショナル・チャリティーランを実施します。当日のコース誘導など、沢山のボランティアのお力が必要です。朝8:30の集合ですが、お手伝いいただける方は沖までご連絡いただくと幸いです。

また、山手センターからも山手学舎を含む3チームを出したいと思えます。応援だけでも結構です。

木場公園でお待ちしております。

▼山手会館について

例会でもお話しましたが、8月から会館玄関前の看板が新しくなり、電気も点灯するようになります。また、プールのタイルも8月に全面張替予定です。古くなってきましたが、少しずつ手直しをしながら、大切にしたい会館です。会員の皆様にご協力をお願いいたします。どうぞご協力宜しくお願いいたします。(沖 利柯)

編集後記

ワイズドットコムを通じて、たくさんのクラブのブリテンが配信されてきます。それを開いて見ると、写真だけでなく、見出しや文字面にもカラーが使われて、カラフルなブリテンになっています。

山手のブリテンも時代に合わせて少しずつ変えておりますが、カラーの使い方などまだまだこれからです。そろそろブリテン編集者の若返りが必要でしょう。どなたか「よし、

やりましょう！」と手を上げる方はいませんか。(F.K)

「私の福島・フクシマ」

会長 浅羽俊一

郎

敬愛する東京山手クラブの諸姉兄へ、

東日本大震災と福島第1原発事故から既に4年半経ちました。そんな出来事があり、今もあることも知らない世代が生まれています。でも未だに福島の避難者の数は11万人。当初は生活確保・安定が共通の課題でしたが、今では各家庭の抱える物心両面の課題も多岐で複雑なのが現状です。

「福島を忘れてはいけない」山手クラブは一年以上、福島の問題は日本の問題、子供たちの問題と、その支援について考えてきました。「何かしたい」「何が出来る？」私たちの思いは東京Y山手センターのコミュニティ委員会でも取り上げてもらっています。現地で出来る支援、都内の避難者への支援、学習サークル活動など色々検討してきましたが、クラブとして責任を持って継続的に実施すると、思いつきでは始められない。でも始めたい。

思案の結果、当クラブのブリテンを媒体に福島への思いを掲載していってみよう、ということになりました。日常話題にならないテーマを、大上段に構えず、ブリテンでさらっと開陳する。そこから一人ひとりの福島、そして今の日本・子供たちへの思いを発信していきたいと思えます。原稿の字数は450-500字です。福島に因んだ題名をお願いします。皆さまのご協力をお願いします。